

「自己点検・自己評価」報告書

令和7年度

令和8年7月作成

学校法人 正興学園

専門学校 関東工業自動車大学校

1. 学校の教育目標

「自動車大学校」を名称に掲げる本校は、「国民の生命と安全を守る」就業の性質から、教育の質の向上と若者たちの人間性教育を大きな使命と考えおります。若者たちが、自己実現と日本の発展に貢献できる人材となる高等教育機関として、邁進してまいります。

関東工業自動車大学校の教育原点は、「専門知識・専門技術は当然。厳しい社会状況だからこそ、豊かな人間性をもつ若者たちを育み、21世紀を背負う若者たちに、夢と希望を与える」であります。教育指導にあたる教職員は、常にこの原点を念頭に置き、学生の個性を伸ばし、厳しい社会を乗り越えていける柔軟性と、自己実現や守るべきものを守る強い心を持ち合わせた人間を育成するため、学生に対して時には二人三脚で寄り添い、時には一人で走らせ伴走するといった指導体制において、成果（結果）を出して学校としての責務を果たしてゆく。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育内容を充実させるべく、職業実践専門課程にも示されているように、企業との連携を今まで以上に密にして、今社会が求めている教育内容にすべくカリキュラム編成を行い、本校で学ぶ学生が社会で求められている知識・技術を修得できるように努める。

また、経済的理由や家庭環境による退学者を低減させてゆくため、学費の経済的支援の拡充及びカウンセリングを強化することで学生指導の質的向上（経済的・精神的）に努める。

3. 重点項目

- (1) 学生募集定員の確保
- (2) 国家資格の全員取得
- (3) 就職率100%（正社員率100%）

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

①課題

激変する業界ニーズを教育内容に反映する体制の確保が課題あるが、今後も継続的に業界との繋がりを持ち、業界ニーズを反映させるための教育内容の検討を行い、次年度の具体的カリキュラムを編成する体制を定着させる。

②今後の改善方策

カリキュラム編成の検討段階では、企業として取り入れたい教育内容に重点が置かれることになるが、業界で強く求めることは、自動車整備士としての基本的な作業を確実に行う能力であり、整備の基本作業を複数回反復させることが重要と考える。これと並行して、社会人としての人間性を育むことにも重きをおく必要がある。また、新技術等を積極的に取り入れるために、業界の方に実習や講習をお願いする機会を定着させ、学生に直接業界の現状を把握させる取り組みを具体的に検討する必要がある。

③特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

学生が学習しやすい環境整備を進め、より魅力ある学校としてゆくために、現存の施設・設備の維持管理を徹底する。

②今後の改善方策

従来の対面授業形態ができる環境を整え、設備・施設の改修等については計画的に実施をするための計画書を作成するとともに、教職員が力を発揮できる労務環境整備を進めて行く

③特記事項

学習環境改善の取り組みの一環として、実習場の空調及び照明等の改善や教材車両等の入替ができたことは評価に値する。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムに作 成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習 等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・事業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはある か	4 ③ 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 3 ② 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確 保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

①課題

基本作業の反復をしっかりと定着させ、実践的な職業教育のベースを身につけさせてゆく教員の確保について、人材が不足している現状がある。

②今後の改善方策

学生への教育レベル及び内容の充実を図る上で、教員が研修会等へ参加して行くとともに、企業等から得られて必要とされる人材像を認識し、今後の教育内容に反映させていく。企業と連携した教員確保や卒業生への積極的な働きかけにより、教員を確保していく。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 ② 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

就職状況が良い環境にあるため就職率は良いが、学生の社会人としての意識低下を防止するようにする。

学生の意識の変化から、退学率が上がってきてしまっている。

②今後の改善方策

就職率、国家試験合格率ともに向上できるような教育環境・体制を考えて行く
多様な学生に対し積極的に声掛けを行なうことで、早期に対応して退学率の低減を図る。

③特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 ② 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

①課題

学生の生活環境、経済的環境をより早く把握して、学生の将来を確保できるように支援への遅れが発生しないような体制作りを進める

②今後の改善方策

卒業生の意見を聞き、どのような支援が必要であることを明確にしていくことが必要である

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学内外の実習設備、インターンシップ、外部研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

教育施設・設備の適正化を継続して図る必要性がある
 学生在籍数増加による、設備不足の現状が顕在化している。

②今後の改善方策

スペースの有効利用のための検討、施設・設備の適正化を教育内容に合わせて検討する必要がある。また、災害時を想定した動線の確保も検討が必要。
 現在増築中であるが、設備（教室）拡充について、計画的に実施していく。

③特記事項

新技術に対応すべく新しい設備を拡充して行くことは必要であるが、企業等から求められている教育内容・レベルに合致したものであるかを検討し予算化して行く必要がある。
 また、災害時を想定した学生の避難動線及び設備・機器の取り付け状態の確認を実施する必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適切に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

①課題

募集活動においては、教員の授業との兼ね合いを考慮しつつ実施しているが、他校との競争力に優位性を持つための対応策立案への創意工夫が求められる。
 高校側へOBの活躍情報においてシステム構築に取り組み改善を図る必要がある
 今まで以上に幅広く自動車業界の魅力発信を行い募集活動に連結して行く。

②今後の改善方策

体験やオープンキャンパス等において、教員及び在校生の声に触れて、入学後のミスマッチを防止して行く。
 整備体験等において自動車整備に魅力付けできるような内容として行きたい

③特記事項

自動車業界の裾野の広さを、高校生・保護者・高校の先生へ積極的に訴求をして、多くの方々に理解をしていただく必要がある。
 年々変化する高校生のニーズを的確にとらえていく必要がある。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
・財務について会計監査が適切に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

①課題

学生募集の成果を向上させることにより財務基盤を安定させてゆくことを全職員に理解を深めて行く。

②今後の改善方策

少子化及び若者の自動車離れに伴う学生募集の厳しい状況においても安定した財務基盤を作るための経費の見直しを図る

③特記事項

経済環境の変化から、学費の見直しを含め、教育環境等への還元を計画的に実施する必要がある。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 3 ② 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
・自己評価結果を公表しているか	④ 3 2 1

①課題

個人情報保護の徹底

②今後の改善方策

一括管理システムの情報管理担当者を置き、情報の保護に努めて行く
人員確保及び労働環境について、積極的に改善を図る

③特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

①課題

今まで以上に学生へ対し、ボランティア情報をSNS等において開示・説明して行く必要がある

②今後の改善方策

学生たちが学業に支障なくボランティア活動へ参加できるような体制を検討する

③特記事項

特になし

(11) 国際交流

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
・留学生の受入・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1
・留学生の受入・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	④ 3 2 1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4 3 ② 1

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

劇的に変化する自動車業界に後れを取ることなく、企業との連携を今まで以上に密にして、企業等の方々から貴重な意見・アドバイスをいただき、教育内容、カリキュラム編成を行う。

本校で学ぶ学生が社会で求められている知識・新技術として、診断器（スキャンツール）を使用した診断方法、診断器の活用方法などを授業に取り入れ実施していることは評価に値する。

なお、新制度による国家資格取得についても、全員が資格を取得できるよう、新制度に対応したカリキュラムを早期に確立させていく。

精神面の弱さによる退学者を低減させてゆくため、早期かつ適正なカウンセリングを強化する体制づくりを継続して実施していく。

教員不足による学生指導の漏れが懸念される。卒業生への働きかけ、企業との連携についてより強力に推し進め、教員拡充を継続的に実施していく。